

第6章 久慈川の生物

(1) 概要

久慈川は、八溝山に源を発し、八溝山地と阿武隈山地の間を南流する。この八溝山周辺及び支川里川の源流周辺は、県内でも貴重な生物が多く確認される地域である。

八溝山は南の筑波山と並んで動植物の多いことで知られる。標高700m付近から山頂にかけて、ブナ、ミズナラの原生林がみられ、国の学術参考保護林に指定されている。また800m付近には茨城県内で八溝山にしか見られないダケカンバや、八溝山が北限とされるツガ、ギンバイソウなどの貴重な植物が数多く生育している。昆虫では、県内では八溝山山頂部でのみ確認されるコエゾゼミや、ブナ、ミズナラ帯で見られるアカエゾゼミなどが生息する。爬虫類では、タカチホヘビが確認されている。

八溝山や里川源流部付近のブナ、ミズナラ帯には、ムモンアカシジミ、ウスイロオナガシジミ、アイノミドリシジミ、エゾミドリシジミ、フジミドリシジミなどのシジミチョウ類が生息している。

また男体山一帯は奥久慈自然休養林に指定されており、八溝山と同様にブナ、ミズナラ林があり、キブシ、マンサクなどが見られるほか、ニッコウキスゲ、ミヤマスカシユリ、イワキボウシなどの草花が自生している。なお久慈川の名勝袋田の滝の周辺の岩上には、同地を基準産地とするフクロダガヤが各所で見られる。

支川里川源流部では、トワダカワゲラ、アカエゾゼミが生息し、ミズチドリやモウセンゴケ(食虫植物)やミズゴケなどの珍しい湿地性の植物が見られる。平野部では、河川敷には水辺に沿ってヨシ、オギ、の群落が主に分布し、中流部に行くにつれて自然度の高いヤナギ類の群落が見られる。支川山田川にはキイロヤマトンボの茨城県唯一の生息地があり、また、シラカシの自然林も見ることができる。なお、河口の日立市付近はハマギク、コハマギクの南限に近い生育地となっている。

久慈川には豊富な鳥類が生息しており、水辺ではサギ類、イカルチドリ、カイツブリ、カルガモなどが見られ、草原ではツグミ、ホオジロ、カシラダカ、カワラヒワ、ムクドリ、オオヨシキリなどが見られる。また河口部ではウミネコをはじめカモメ類が多い。一方、上流の八溝山ではヤマドリ、オオルリほか、冬にはイワヒバリ、ハギマシコといった鳥類が生息し、山麓では珍しいオシドリが見られる。那珂市(旧瓜連町)の古徳沼は、オオハクチョウ、コハクチョウの渡来する地として知られ、数多くのカモ類も渡来する水鳥の楽園となっており、山間の清流にのみ生息するとされるヤマセミも古徳沼畔で観察されている。里川最上流にはコノハズクが生息する。




平野部の河川敷には、トンボ類、チョウ類、バッタ類などの通常よく見られる昆虫が生息しており、浅川合流点下流では環境省が指定した特定昆虫種であるギンヤンマが確認されている。また、大子町の久慈川河原には、ヒメシロチョウの生息地がある。なお八溝山には「生きている化石昆虫」として日本を代表するムカシトンボのほか、ガロアムシ、トワダカワゲラなどが生息している。

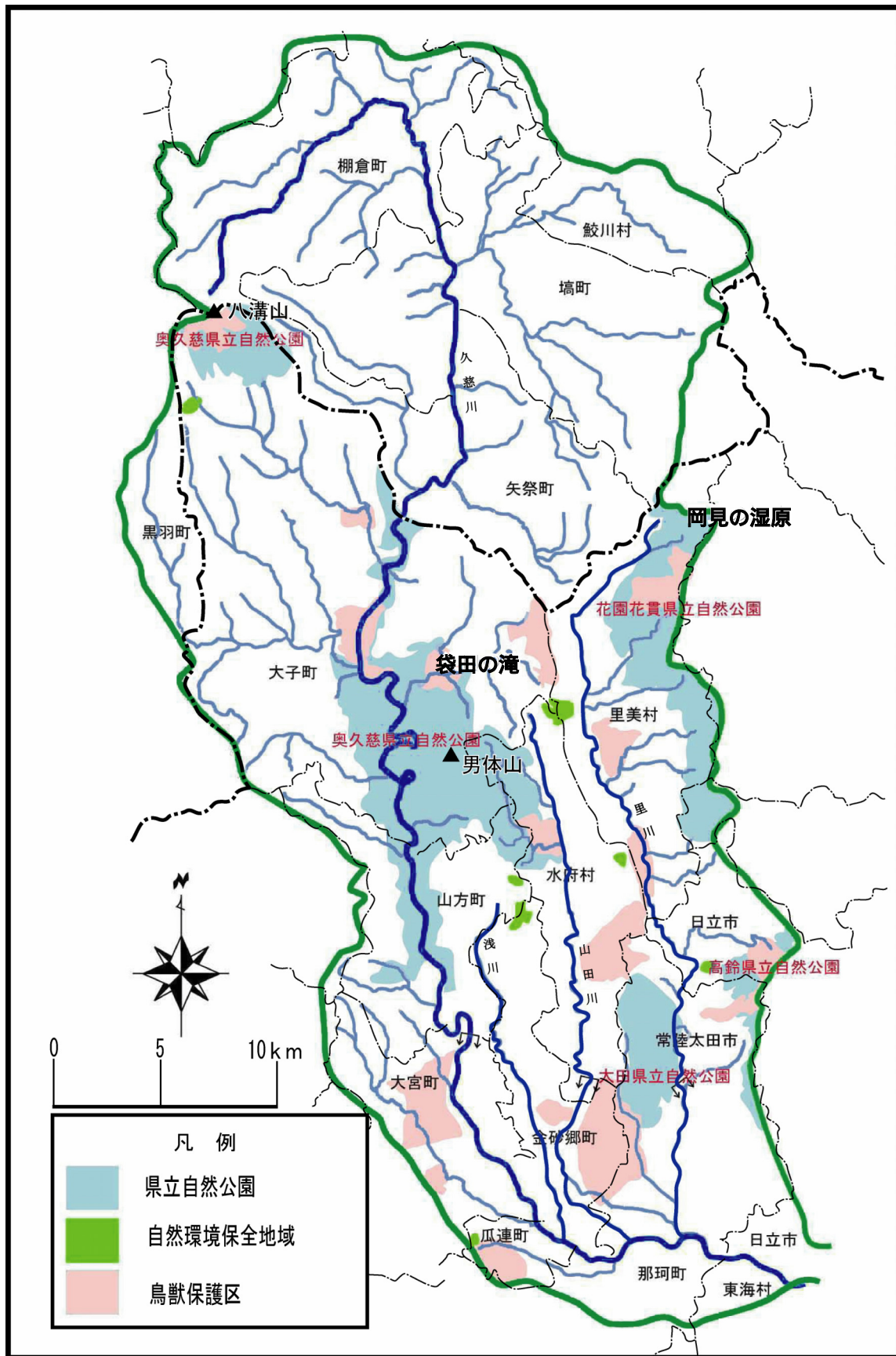
哺乳類としては、山間部を中心にムササビ、リス、イノシシなどが見られ、八溝山や里美村の国有林内には国の天然記念物に指定されているヤマネが生息している。そのほか八溝山にはモモンガが生息する。

久慈川はアユ釣りのメッカとして知られている。最上流部にはイワナ、ヤマメ(放流)、カジカなども生息し、中流部ではウグイ、オイカワ、カマツカ、アユ、下流部ではコイ、フナ、ウナギなどが生息している。また、アユ、コイ、フナ、ウナギ、ソウギョ、レンギョ、ワカサギ、イワナ、ヤマメ、ニジマスなどの放流が行われている。

なお、両生類としては、八溝山にハコネサンショウウオ、タゴガエルが生息し、カジカガエルは山

方町付近の久慈川に生息していることが確認されている。

注) 文中に示される  は、茨城県版レッドデータブックの掲載種
 は、環境省版レッドデータブック・レッドリストの掲載種
 は、 と の掲載種



図中の市町村のうち、最近以下の市町村において合併が行われた。
 * 大宮町、山方町、美和村、御前山村 常陸大宮市 (H16.10.16 合併)
 * 常陸太田市、金砂郷町、里美村、水府村 常陸太田市 (H16.12.1 合併)
 * 那珂町、瓜連町 那珂市 (H17.1.21 合併)

図 6-1 久慈川流域において自然環境に係る各種法規制等の状況